

令和7年度 学校評価

学校教育目標『自立して生きる力を育むために主体的に考え動ける人づくり』

『学校経営の重点』

- ①主体的に生きるための人間性や社会性の育成 ②就労に必要な力の育成 ③地域社会に貢献する力の育成 ④自身の命を守る力の育成
⑤職業教育を主体とした学校づくりの推進 ⑥教職員の専門性の向上

- 4十分できている
- 3おおむねできている
- 2あまりできていない
- 1できていない。改善を要する
- 直接担当していないので判断が困難

	校務分掌	実践目標	具体的な取り組み	評価指標	自己評価項目（教員）	コメント	成果と今後の課題
学 校 運 営	開かれた学校	総務部 学校の取組を保護者、入学希望者・その保護者等に紹介する。	「西神戸だより」、ホームページの充実を目指す。入学希望者へのアンケートを実施。	「西神戸だより」、ホームページを有効活用できたか。		・どう言った文で伝えられているのか、担当者任せになっていると感じる。学校として明文化したものがないか。 ・掲示物や入学相談、オープンスクールが丁寧に行われている。 ・HPでは、取り組みを紹介されていたが、十分であったかは判断が難しいです。 ・部活動の取り組みが良く分かった。	ホームページへの投稿回数を増やすとともに、内容の充実を進めていきたい。
		情報図書部 家庭や地域への情報発信	学校WEBページ等のサービスを利用した学校情報の発信にアンケートや利用者情報の結果を反映した情報発信をする。	各WEBサービスの利用数等のモニタリングやアンケートにより定量的、定性的に評価する。		・ブログの活用は有効だと思う。 ・インスタグラムでの発信はよくなったと思う。 ・インスタやブログ等上手に活用している。 ・家庭への情報発信は、HPや通信でできていたと思うが、地域への発信は判断がつかない。	学校ホームページは約1万4千以上の来訪があり、引き続きブログ、SNSへの流入の増加と見やすさを工夫することと最新情報の更新頻度を増やしていきたい。
	進路指導	進路指導部 卒業生の定着支援を行う。定着支援の気持ちを在校生に生かす。	卒業前に関係機関との連携を図り情報共有を行う。進路先への訪問や、必要時に連絡をとり卒業生、保護者のサポートを行う。定着に関する情報を関係機関とも共有しサポートを行う。定着支援の気持ちをビジネスマナーの授業やウォームアップ講座を通して在校生に伝える機会を設定する。	定着支援の中で得た情報を適切に報告し対応できたか。定着支援の気持ちを在校生の指導に還元できたか。		・定着支援のことが会議で出たので、これからの取り組みになと思う。 ・進路指導部から頻繁に定着支援の状況や課題を教えてもらえば、在校生へ対応ができたかもしれない。 ・進路指導部の方々が在校生に対して、折に触れ、職業指導することで、できていた。	卒業生、保護者、企業から相談を受け、速やかに関係機関と連携を図り支援を行った。その結果、問題、課題解決や離職を防ぐことができた。定着支援から見えた課題を授業等で生徒に伝えた。職員に対しては特に顕著なケースを表にまとめ提示したが、全職員に対する共有が今後の課題である。
		進路指導部 生徒一人一人に応じた進路実現のための取り組みを行う。	生徒、保護者との話し合いを適宜行う。学年団との連携を図る。実習を実施する中で生徒は自己理解を深め動くイメージや意欲を培う機会を設定する。	生徒、保護者との話し合い、目標設定、振り返りが進路選択にいかせたか。		・実習や進路についての保護者・本人との個別懇談会の回数について今一度検討が必要かと思う。 ・学年団と進路指導部との連携を密にする体制が必要。どう進んでいるのか担任と進路担当者しかわからないところがあり、学年としては不安を感じている。 ・進路の取り組みをもっと身近にわかりやすく知りたい。 ・進路指導部の方々が生徒の希望をよく聞き、相談した上で個々に合った進路先や実習先を探してくれている。	実習を通し生徒や保護者と密に連携を取り、一人一人の進路実現に向けて取り組んだ。生徒は就労に対するイメージや意欲を高め、自分の進路を決める契機となった。今後、各学年団とさらなる連携を図り進路指導の充実を目指していきたい。
	危機管理体制の整備	総務部 アグリパークと一体となって危機管理体制を整備する。	MEリゾートとの連携を密にする。職員研修の充実。	職員の意識を高めることができたか。		・これからより連携を深めながら進めていく必要がある。共同で行う避難訓練など。 ・有事を想定した訓練は必要なのか。 ・校内独自ではできていたと思うが、アグリパークとの連携はできていないと思われる。	職員の危機対応の意識は高まった。避難訓練、職員研修の充実に取り組んでいきたい。
		保健部 環境衛生に取り組み、安心安全な教育環境を整える	生徒保健管理委員会を活性化させ、生徒も共に主体的に取り組む。	生徒保健管理委員会と協働し、学校全体でより良い環境作りに取り組みめたか。		・校務員さんをはじめ、事務の方、ワークセンター学校業務支援スタッフが、よく整備して下さっている。 ・美化タイムに力を入れている事で、安全点検が毎日できると感じているから。 ・夏場の体育の授業が生徒、教師ともに過酷であると思います。体育館での対策（窓開け、扇風機）も限界で他の特別支援学校では冷房（エアコン）が設置されているところもあるので、導入してほしいと切に願います。 ・洗濯を定期的に行い、衛生的であった。	生徒保健管理委員の仕事の意義を理解し、活動を活性化できた。生徒が環境衛生について理解を深め、生徒保健管理委員会を中心に行動にうつすことができるようになった。また、日々の美化タイムで安全で清潔な環境が保持されている。今後も生徒が主体的に活動ができるように支援していく体制作りを進め、学校全体で環境作りに取り組むたい。

	センター的機能	支援研修部	地域と連携を図り、本校のセンター的機能の役割を果たす。	地域の学校園及び保護者等への周知を行い、組織的な連携体制を作る。	組織的な連携体制を作り、センター的機能が組織的に活用可能な状態にあるか。		<ul style="list-style-type: none"> ・中学校からの相談はあまりないのかと思うが、高等学校が特別支援学校かの正しい進路決定に向けた助言はセンター的機能を発揮しても良いのではないと思う。 ・本校の取り組みをもっと身近にわかりやすく知りたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校の教育相談や放課後等サービスの保護者対象の研修会を実施し、中学校卒業後の進路や高等学校卒業後の進路についての情報提供および助言を行った。また、神戸市内の中学校ブロック会に出席し（本年度は4ブロック）、本校についての情報提供を行った。 ・教育相談や巡回相談などを行った後に報告して、地域支援の周知を図る。
教育課程	教育課程	教務部	生徒の実態に即した教育課程を編成し、実践する。	生徒一人ひとりの実態に応じた学習内容、指導方法等の工夫に努める。	生徒一人ひとりの実態に応じた学習内容、指導方法を工夫することができたか。		<ul style="list-style-type: none"> ・評価できるほど、自分がよくわかっていない。 ・教育課程委員会でテーマを持ちながら議論のできる取組をつくる。 ・10周年を迎えるにあたり、卒業生の様子から（仕事の定着や社会生活の充実など）検証する必要があるのではないかと。 ・就業するために必要なカリキュラムにはなっているが、そのカリキュラムにあわない生徒の実態が感じられた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・成果として、中間評価での振り返りをもとに、学期途中で教材のレベル調整や家庭学習の課題設定を見直すなど動的な運用を行った教科も見受けられた。 ・課題としては、個別最適化を深める一方で、集団の中での協働的な学びとのバランスをどうとるか課題である。
	生徒支援	支援研修部	適切な実態把握に基づく、適切な指導を行う。	チームで実態把握を行い、障害特性に基づいた指導・支援について検討していく。	チームで障害特性を確認し、個別の指導計画の項目に基づいた記載ができたか。		<ul style="list-style-type: none"> ・担任が保護者と連絡を密にできている。 ・支援研修部による支援体制の整理、組織的な運営、合理的配慮についての進め方の整理 ・担任を中心に学年団で共有できている。 ・指導が適切であったかどうかは、判断がむずかしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・個別的教育指導計画（自立活動）の作成について、自立活動検討会の計画を行った。また、学年と協力し、校内支援会議や関係機関との会議を運営し、生徒への支援の方向性を検討することができた。 ・生徒の適切な実態把握の手立ての情報提供や組織的な支援体制の構築などを行う。
	生徒指導		いじめのない集団への取り組み	学校としてアンケートや面談等を行い、日頃からいじめの早期発見に努める。	アンケートや面談等を実施し、生徒の情報を関係部署と共通理解、協力の下、対応ができたか。		<ul style="list-style-type: none"> ・生活アンケートをはじめ丁寧な聞き取り、対応ができています。 ・気になる事案について、早い段階で対応できた。 ・いじめに相当する事案が数件起こった。取り組みがうまくできたかどうかは疑問である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事案に対して、関係部署と協力して対応することができた。また、複雑な事案に関しては、関係機関と連携して対応することができた。今後も様々な事案に対して、未然防止・早期発見に努めたい。
	特別活動（生徒指導）	生徒指導部	行事、生徒会活動の主体的な取り組み	生徒会役員を中心に、また、スポーツ祭や西神戸祭では実行委員と連携し、学校行事を企画・運営し実行する。	行事や生徒会活動を企画・運営し、生徒が主体的、積極的に参加することができたか。		<ul style="list-style-type: none"> ・日々忙しい中で計画的に進めることができていた。 ・生徒会行事の見直し、生徒会が主体で行う取組や、公約を実現する取組に変えていきたい。 ・先生に言われたから仕事をこなす「当番活動」ではなく、生徒が「自分たちで学校を自分たちの力で楽しく、より良くしようとする自治的な姿勢」での活動を期待します。 ・ただ、生徒会の生徒の実感はどうなのかわからない。公約が果たせなかったという発言も気になった。 ・生徒が主体となって活動する様子が多く見られた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・行事では司会や準備など積極的に活動することができた。マニフェストなど新しい試みや行事を考え実行することができなかった。クラスルームを活用し連絡・相談等を行うことができたが実際生徒会役員が集まる機会が少ないことが課題であった。
	保健教育	保健部	保健教育を通して生徒の健康管理能力を高める	全学年で「いのちの授業」に取り組み、心身ともに健康に生活していくための知識の習得から共生社会へと繋がる基礎をつくる。	「いのちの授業」をはじめ、保健教育を通して生徒の健康管理能力を向上させられたか。		<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツ健康において保健教育の充実、年間指導計画での位置づけ。 ・寒い時期に半袖で過ごしている生徒に対しての指導がうまくいかず、風邪をひいた生徒もいた。家庭との連携も必要だと感じた。 ・保健教育により健康管理能力が高まったかは疑問である。タバコやアルコールなどの将来の健康についての教育が主で、将来の健康については高まっていると感じる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・がん教育から始めるいのちの授業を通して自分の健康や生き方、また、共生社会といった視点から保健教育を行うことができた。毎年の学習の積み重ねで自分と周囲の人の関わりの中で自分事として考えることができてきている。各教科と連携し、各学年ごとに取り組める教材と体制作りができてきた。今後も継続に努めたい。

課 題 教 育	人権教育	人権教育推進委員会	人権意識アンケート結果で確認できた課題（「HIV感染者・ハンセン病患者等」「高齢者」「女性」）に関する知的理解を高める。	年間指導計画を見直し、授業を設定・実施する。授業で得た知的理解を日常生活場面で確認し、評価する。	人権課題の知的理解が高まったか。		<ul style="list-style-type: none"> ・生徒には内容が難しく、身近でない課題だと思う。 ・生徒はしっかりと自分ごととして考えられていたと振り返りを見て、感じた。 ・HIVだけでなく、他の疾病や感染症と併せて学習を深めたため。 	人権意識アンケートの結果より、課題である「HIV感染者・ハンセン病患者等」について、他の疾病に含めて学習し、病気に罹患した方の人権を考えることができ、知的理解が高まった。教科等での知識獲得等の機会の設定、カリキュラムマネジメントが課題である。	
	社会参加活動	SC部	サテライトDAY、サテライト授業を再考する。	サテライトDAY、授業における教育的効果を検証する。	サテライトDAY、サテライト授業の実施場所ごとの目標を整理できたか。		<ul style="list-style-type: none"> ・意味づけ、価値づけについてSC部から職員全体に発信を。サテライトDAYの回数の確保を。特に3年生ではサテライトDAYを中心とした授業設定を進めたい。西神戸版デュアルシステムについての押さえおしを。 ・サテライトでの教育効果は大きいと感じるが、生徒の能力と時間設定に無理があるのか、時間内に終了しないケースが散見された。ただ、そこまでやって生徒自身が気づくこともあるのかと思うため、どちらが良いかわからない。しかし、授業は授業時間内に終わるべきかと思う。 ・今年度初めてサテライト授業を経験した。サテライト授業の意義を認識したところで、個人としては再考にまで至らなかった。 	授業担当者間でサテライトDAYの教育的効果を確認し、それを生徒に対して授業の中で具体的に伝えることができた。取り組んでいる内容や目的などをさらに整理し次年度に引き継ぐことが今後の課題である。	
	キャリア教育		新西神戸版キャリア発達段階表を活用する。	生徒と教員が入力した個人ごとのキャリア発達段階表から本人の課題を見つけ目標を設定する。	キャリア発達段階表を活用して、生徒個人の目標を設定できたか。		<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の実態を把握するために有効な指標となっている ・もっと生徒にも意識させる取り組みができればと思う。 ・目標を考える際に、参考にした。 	生徒と教員が同じ指標で考えるきっかけとなり、生徒の目標を考える参考となった。	
	情報教育	情報教育	情報図書部	情報活用環境の整備と1人1台端末活用の「日常化」	一人一台端末を活用するために、ICT活用能力の育成や環境作り、必要な支援を行う。	利用状況等を集計し、環境の整備や活用が効果的に推進できているか。		<ul style="list-style-type: none"> ・かなりの頻度で使用することができている ・情報端末の活用はできていたが、「日常化」は難しかった。 ・まだ自己研鑽しなければならぬと感じている。 ・テレビへの接続端末の数を増やしてほしい。 ・学習のまとめや日誌の作成で日常的な利用が進んでいるように思う。 ・一度に使用しても、意外とネット接続がスムーズで困らなかった。 	クラウドサービスの学習利用を増やすために効果的な利用方法を提案することやAIとの連携について理解を推進していきたい。
	1年			集団や社会の形成者としての見方考え方を働かせ、自らの課題を明確にし、自ら考え主体的に行動することができる。	各授業の中で、目標を意識して取り組み、振り返りの中で自己理解を深める。話し合い活動を充実させ、合意形成を図り、協働して取り組む機会を設定する。	学校生活をより良くするための課題を見出し、解決するための話し合いができたか。協働を意識できる活動を設定し、生徒たちが主体となる活動になっていたか。		<ul style="list-style-type: none"> ・学年団としては精一杯関わっている 	この一年で、格段に世界が広がり、膨大な情報を入手しながら多くの体験を積んだ。常に自己の課題に向き合い、主体的に取り組む基礎が仕上がったと考えられる。多様な価値観に触れあい、より主体的に学校生活をより良くするための取り組みを計画的に実施していきたい。
			実践的体験的な学習活動を通して働くことの意義を理解し、職業への興味関心を深め意欲を育てる。また、取り組みや評価を通して自分の能力や適性を知る。	職業自立を目指す学習活動およびトライやるJOBを通して、自分の適性を捉え、実践を評価・改善し表現する力を養い、コース選択を行う。	作業日誌、実習日誌、振り返りシートを活用し、自己評価と課題解決に向けた取り組みが行えたか。将来の職業生活を見据え、進路決定の主体として、コース選択ができたか。		<ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラムの中で育む事ができている 	自立活動や、職業科目の取り組みを通して自己評価を行い、自己理解を深める中で自分の課題に向き合えるようになってきた。JOBでは会社に求められる能力と持ち合わせる能力の違いも知り、自分に合ったコース選択につながった。就労に対する生徒からの質問、相談事を漏れなくキャッチできる機会を設けたい。また、働く意欲を育て高められる活動を工夫していきたい。	

学年

2年	<p>集団や社会の形成者として見方・考え方を働かせ合意形成を進め、仲間とともに協力して実践する。多様な人々と共生する態度を身につける。</p>	<p>話し合い活動や、共同作業の場を設定し、合意形成を図り、協働して取り組む機会を設定する。</p>	<p>協働を意識できる活動では、生徒たちが主体となる活動になっていたか。</p>		<p>・総合的な学習の時間での修学旅行や校外学習などの取り組みを通して、繰り返しそう言った場面設定をする中で、後半になるにつれて、できてきた。 ・クラス内で小さくまとまっていたように感じる。他クラスの生徒との交流があれば、より良かったように思う。</p>	<p>コースごとの生徒が作り出す雰囲気や物事を進めようとするプロセスなどに大きな違いがあり、日常的に学年全体がまじりあう必要があった。主に総合的な探求の時間やLHRでの活動を通じて工夫し、概ね「できた」という評価が得られたと感じている。今後、さらにクラスを超えた取組を工夫し、できるだけたくさんの価値観やプロセス等に触れさせ、生徒一人一人の世界を広げることが課題である。</p>
	<p>職業体験実習及び授業の中で自らの課題や目標を明確にし、「自分らしく」働くことを意識して、専門的な職業能力を高める。</p>	<p>職業自立を目指す授業を中心に、段階的に座学や実技指導等の授業を行う。授業での課題や、就業体験実習での気づきをそれぞれの場面で意識し、活かす。</p>	<p>作業日誌や振り返りシートを活用し、課題の発見や課題解決に向けた工夫ができたか。</p>		<p>・一人一人を見ると「できた・できない」の幅があるが、学年全体として、秋に実習がなかったことで落ち着いた学校生活が送れ、日々、自身の課題を意識する取り組みの中で、伸びが見られたと感じている。 ・職場体験実習の中では課題を明確にでき、サテライトや作業を通して目標を達成しようとする事ができた。</p>	<p>秋に実習がなかったことで、日常の学校生活を落ち着いて送れ、自分の課題にしっかりと向き合える生徒が増えた。また、実習での課題に加えて、コースや各教科の取組にも積極的に課題解決に向かうとする姿勢が見受けられた。ただ、教員の評価に比べて生徒や保護者の評価が低く、実感として感じられていないのか、もしくは生徒の中で二極化が起こっている可能性があると考えられる。今後さらに検証し、一人一人の進路に向けた実感できる取組を進路指導部とともに充実させていくことが課題である。</p>
3年	<p>生活経験の幅を広げ、卒業後の社会生活へスムーズに移行ができることを目指す。</p>	<p>校内外における体験的な活動や、ボランティア、企業実習、文化・スポーツ行事における成果や結果を積極的に評価していく。集団生活での望ましい人間関係の形成や社会生活上のルールの習得などの社会性、社会の基本的なモラルなどを身につける機会を設ける。</p>	<p>体験活動に意欲的に取り組み、その経験や結果を肯定的に捉えられているか。社会人になると、何がどう変わるのか、自分がどのような意識と態度で仕事に望むべきなのかを考え、文章にまとめたり実践したりできているか。</p>			<p>行事や体験的な活動など、取組の前後に事前事後学習等を充実させ、さらに成果や評価を伝えることで、意欲の向上につながり生活経験の幅を広げることができた。卒業後の生活について、ホームルーム活動を軸に未来を見据えた目標設定や課題解決の方法を考え実践する時間を確保することが課題である。</p>
	<p>職業・社会生活を意識した自己決定力の育成と、主体的に自立した生活を営むことができる力を身に付ける。</p>	<p>各授業、委員会活動、学校行事、実習などを通して主体的に課題解決に取り組む、社会人前基礎スキルを身に付ける機会を設定する。</p>	<p>作業日誌、実習日誌、振り返りシートを活用し、正確な自己評価と課題解決が行えたか。</p>			<p>学習や様々な取組について、作業日誌やワークシートなどを活用させながら自身やグループの課題を確認するとともに、解決に向けた話し合い等の場を設定することで、主体的に考えようとする姿勢が見られた。教科横断的な視点での取組の充実が課題である。</p>